

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4078400092		
法人名	医療法人 八女発心会		
事業所名	医療法人 八女発心会 グループホーム舞風台		
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡広川町大字新代 2316番地 (電話) 0943- 32- 7111		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2- 2- 51		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年9月18日

【情報提供票より】(20年 7月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21人	常勤	19人, 非常勤 2 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	RC 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または 1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護 1	8 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	7 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	2 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	60 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 合原会 合原医院、白谷歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな広い敷地に設立されたホームは緑が多く四季折々の季節を感じることができる。設立者の両親の介護の必要性と地元で暮らしていきながら地域の為に役に立ちたいとの思いで老人保健施設とグループホームを立ち上げた。併設された老人保健施設を含め4つの棟に分かれておりそれぞれ「青龍棟」、「白虎棟」、「朱雀棟」、「玄武棟」といった名前が付いていて、これらの名称は、東西南北の四方の方角を司る神の名前に由来しており ホームは「朱雀棟」に位置している。舞風台というホームの名前は誰にでも同じ風がきて皆平等で幸せであるようにとの願いが込められている。その中で働く職員の表情は一同に明るく利用者、地域の為に役に立ちたいとの思いが伝わり 利用者が安心して暮らしている様子が窺い知れる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善点はホーム全体で話し合い、改善できるところから取り組んでおり管理者、全職員が評価を前向きにホームの姿として捉え日々の業務で活かしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に関しては職員も周知しているが、管理者が話し合いまとめ、職員はまとめたものを其々が目を通して、自己評価の意義を再度理解していただき、全職員が確認し取り組みをしていただく事を希望する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 区長、町の担当者、民生委員、地域の保育園園長、前区長、家族代表、利用者代表、ホームの管理者、職員等の出席があり 3ユニット合同で定期的に開催している。ホームの運営や利用者の状態についての報告や外部評価の報告、家族からの相談、地域との連携について等、話し合われており 地域との関わりが徐々に増えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族が面会に来た際にどの職員でも利用者の状態を報告できるよう職員が情報を共有し、家族に報告をし、家族からの意見を聞き取るようにしている。月に1回ホーム便りを作成し近況を報告している。年に1回の家族交流の忘年会があり 家族からの意見や要望も聞き取れる取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との関連(関連項目:外部3) 昨年8月に自治会に入会し、清掃活動、草取り等の地域の活動に参加し、公民館主催の夏祭りに利用者と共に参加している。ホームの行事の夏祭りには地域住民へも呼びかけを行いホームの存在を知ってもらう機会がある。また、忘年会には地域からボランティアとして参加があり交流が増えている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	法人の理念「安らぎ、思いやり 連帯」を元にホーム独自の理念を全員で話し合い作り、誰でもが目に付くところに掲示している。相手を尊重しゆっくり優しく丁寧な支援を行い利用者や家族に安心と信頼を提供する。といった解りやすい理念を掲げ、全員で取り組んでいる。		地域の一員として関わりを示す理念があれば更に地域との関わりも深まり意識付けもできるのではないだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの目に付くところに掲示し、いつでも確認できるようにしている。月に1回の定例会でも法人代表者が理念について講話をし全員で確認している。また、日々の業務においても管理者が職員に伝え職員が周知し理念に基づいたケアを提供できるよう取り組みを行っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、清掃活動や夏祭り等地域の行事に参加しホームの行事にも地域から参加を呼びかけている。ボランティアの参加も増えている。近隣の保育園の園児が来訪し利用者との交流を行い、地域の一員となっている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点に関してはリーダー会議で話し合い定例会議にて職員も加わり各ユニットで取り組みを行っているが、今回の自己評価に於いては管理者が項目を確認し評価を行い職員は目を通したのみである。職員は評価の意義を理解しているものの、全ての職員が自己評価の取り組みに関わっているわけではない。		評価の意義を再確認し、より良いホームとなる為に全職員で取り組みを行うことを希望する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催しており出席者も増えている。区長、前区長、町担当者、地域の保育園園長や家族代表、利用者代表、職員も出席し、ホームの現状の報告、地域との交流に関する意見交換、また、外部評価の報告等も行いサービス向上に繋げている。		

グループホーム 舞風台

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事がある場合は直接出向いたり電話にて解決できるよう連携を図っている。ホームの行事等の広報も町の広報誌に掲載してもらいホームを知ってもらい取り組みを行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを準備し、必要な人へ説明を行っている。現在制度を利用している利用者もいる為、職員は概ね周知しているが全職員が理解しているわけではない。		定例会議を毎月開き、研修等も取り入れているので、権利擁護等の勉強会も行い全職員が周知し、必要な時に必要な人へ誰もが説明できるよう取り組みを期待する。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状態や近況報告を行っている。金銭の出納状況と1週間に1回の往診結果を1ヶ月に1回の便りと共に家族へ報告している。また、利用者の状態の変化があった場合は随時報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見表出しやすいよう面会時には必ず声をかけ意見や要望を聴き取っている。意見箱の設置、公的機関の窓口等掲示している。また、家族との交流の機会である忘年会を催し気軽に意見を出せるようにしている。家族からの意見、要望は定例会等で話し合いを行い沿えるよう取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の心身の状態を考慮し併設の老人保健施設との異動は殆ど無い。また、過去1年間で離職者も無く落ち着いている状況である。異動、離職等があった場合は、3ユニットの全職員が全ての利用者に関わりをもち、状態を把握している為、スムーズに引き継ぎができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に関しては性別や年齢等条件は無い。採用する職員の年齢層を幅広く経験や知識、特技を活かせるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>老人保健施設と合同での身体拘束委員会があり人権に関する勉強会で中心的な役割を果たしている。また、定例会議に於いて法人代表者等が人権教育を行っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修の案内にて、職員は希望により研修を受けることができる。研修参加後に伝達研修を実施し情報共有に努めている。また、定例会議の際勉強会を行ったり、資格取得のための勉強会も開き職員のスキルアップに取り組んでいる。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加している。職員も交代で会議等に参加し他の同業者と事例検討等にて情報交換を行っている。また、他の施設の見学にも積極的に行く機会を作っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前には自宅や入院先を、管理者、計画作成担当者が訪問し生活状況や諸々の情報収集を行い、顔見知りになるよう見学もしてもらっている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>相手を尊重し、丁寧に接することを理念に忠実に関わっており、利用者の得意分野を引き出せるよう会話をすることや教えてもらうことを積極的に実施し、一緒に過ごし、何でも話せる関係を作っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族の希望を聴き取り、アセスメント作成している。また、常日頃の利用者の行動、表情を担当者が記録し、それを元に全職員で話し合い、意向を確認している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを元に担当者が計画を立て、計画作成担当者、担当者、管理者にて検討し計画を作り上げている。医療面で指示が必要な利用者の場合は主治医に意見を求めている。家族からは、要望や意見を聴き取り計画に反映させている。主治医からは必要な場合に聴き取っているが聴き取った記録が整理されていない。また、目標の期間が長期、短期共に同じ期間である。</p>		<p>計画は本人の状態や希望がわかりやすくなっているため、本人の状態に合わせて長期、短期の目標の設定を見直し、生活の目標が解る計画にし、関係者の意見等の反映も解るものにする事を希望する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当者が気づきを記録し、毎月のモニタリングを行い、状態の変化もわかりやすい。状態の変化に伴い見直しを行い新たな計画を立てている。</p>		

グループホーム 舞風台

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人の希望はできる限り可能なものにする努力を行っている。家族の宿泊や食事を一緒に摂ること等柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々であるが本人、家族の希望にてホームの協力医への変更もある。協力医の往診にて利用者の状態の情報交換もできおり、他科受診等は家族の協力で情報を得、本人の状態を把握している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族の意向や希望を聞き取り、本人の思いを確認し同意書を得ている。重度化した場合は、その都度主治医、家族と話し合いを行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格や個人を尊重した優しい対応している。個人記録等、第三者が目につかない場所にて鍵の掛かる部屋に保管されている。個人の名前や写真を表記する場合は同意書を交わしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日生活の流れはおおまかにあるが、コミュニケーションを取り声掛けを行い、本人の希望に沿い自由な生活ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや味見等利用者ができることはさりげなくしてもらい、食事は利用者とその日の勤務の職員全員と一緒に食事をし、静かではあるが、暖かな会話を交わし和やかな雰囲気の中食事を摂っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3ユニットで曜日設定はあるが、本人の希望があれば、どのユニットでも入浴できるようなシステムにしている。また、時間も朝から夕方まで自由に入浴を楽しめる。入浴拒否者への声掛けを何気なく行い自然に入浴されるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くの商店から食材が届くと3ユニットで配分しているがそれを届けに行くのは利用者の役割となっている。利用者はそれを楽しみにしている様子である。その他、米を磨く、洗濯物を畳む等利用者の能力を発揮できる。また、特技を引き出し民謡やパズルを楽しむ利用者への支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地である為、自由に散歩ができ東屋風の建物で休息したりお茶を飲んだり本人の思うよう行動している。また、ドライブや季節毎に花見を楽しむ企画を立てできる限り戸外へ出る支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放され利用者が自由に出入りしたり家族も何時でも面会に来られる。利用者が屋外に行った場合は、様子を見ながら本人に合わせて対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回夜間想定も含め避難訓練を行っている。マニュアル、連絡網も完備している。併設の老人保健施設との連携は取れ、近隣の専門学校の生徒さんの応援体制も取れているが、地域住民の協力体制はまだ不明である。		運営推進会議等を活用し、災害時の地域への協力を呼びかけ利用者、家族が安心して暮らせるよう取り組みを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の老人保健施設の栄養士が献立をチェックし、カロリー、栄養バランスを助言してもらっている。食事摂取量の記録、水分摂取量の記録ともに個別に取っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニット共通の玄関は老人保健施設の玄関でもあるが、各ユニットごとに玄関を設け、出入りがしやすい環境である。共用スペースにはベンチやソファが置かれ休息でき、大きな窓から自然採光が明るい雰囲気を作っている。壁面には季節感のある飾りがされ、自宅を思わせる置物も所々に置かれ気持ちが和む工夫がされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、筆筒等はホームで準備しているが、希望にて本人の使い慣れたものを置いている。本人の大切な物や、家族との思い出のもの等が何気なく置かれ気持ちが和むよう配慮されている。		